



Crisis Caravan クライシス・キャラバン

紛争地における人道援助の真実

Linda Polman
リンダ・ポルマン—(著) 大平 剛—(訳)

東洋経済新報社

■善意めぐり、思惑と現実が交錯

〈人道援助〉には金科玉条の響きがある。この言葉をかざして正義の代理人を気取るのは容易(たやす)い。しかし、オランダ人の女性ジャーナリストが本書で告発する紛争地の現実はそのような思い上がりを次々と粉碎してゆく。

ドナーや援助機関の注目を集めるための戦争当事者の狡猾(こうかつ)なPR戦略。過激な暴力ほど援助を引き寄せる皮肉。難民キャンプに逃げ込み、援助を搾取し、態勢を立て直す戦士たち。下請けや詐欺や汚職が繰り返されるうちに雲散霧消してゆく巨額の援助資金。戦争当事者に分け隔てなく援助する赤十字の高潔な人道原則が対立を深化させる逆説……。

善意をめぐる玉石混淆(こんこう)の思惑と現実が絡み合うなか、私たちは〈人道援助〉という複雑な連立方程式の解をどう求めてゆくべきか。

ルポの主たる舞台はアフリカだが、人道主義や人権を掲げる外交が注目される昨今、本書が投じる問いの射程は広く、そして深い。



大平剛訳、東洋経済新報社・2310円